

TO講習会（報告書平成28年度高等学校関東バスケットボール大会に向けた準備事業）		
期間	平成28年1月17日（月）	
会場	上尾運動公園体育館	
講師名	河野 佐紀子 氏（日本協会） 八丁 茉莉佳 氏（日本協会）	
対象	補助役員生徒 60名 及び 県内審判員	
時程	9：00	開講式（本県TO委員長挨拶・講師によるレクチャー）
	10：00	実技（埼玉県高等学校新人大会 決勝リーグ）
	16：20	閉講式（講師講評・委員長挨拶）
	16：40	県内審判員へ向けたレクチャー

### 【開講式】

委員長挨拶 成澤 俊幸

～TOの役割、在り方について～

当事者・周囲ともに、TOに対する意識が低いのが現状。しかし、選手は練習を重ねており、試合では一生懸命プレイする。TOのミスやトラブルで選手に嫌な思いをさせては絶対にならない。また、TOは「第三の審判」といわれる立場にもあり、ミスがないことを求められる。本日の講習では、作業だけではなく心構えも学んでほしい。

～審判員に向けて～

かつて埼玉では、国体・インターハイ・ヤングマン・世界選手権と多くのビッグゲームが行われてきた。TOの基本はルール。正しくルールを理解し、TOマニュアルを正しく実行できれば、英語が堪能でなくとも問題なく国際ゲームを担当することができる。誇りと責任を持ち、重要な役割を担っていることを感じていただきたい。

講師によるレクチャー 河野 佐紀子 氏

～心構えとして～

TOは「テーブル・オフィシャルズ」のこと。審判とともにゲームに関わる重要な役割、バスケットボールに対しては審判と共通の理解をもって臨んでほしい。また、今回大きな大会のTOに携われることを「ラッキー」と思ってほしい。

今日の目的は「正しい知識を学ぶ」こと。バスケットボールは残り時間と得点を争うスポーツであり、0.3秒あればショットが可能。コンマ何秒を大事にしてほしい。TO席ではプレイヤー・審判・観客の視線は持たず、TOに徹すること。「邪念がミスを誘発する」。

～具体内容について～

「ライブ」と「コントロール」という言葉は、TOが様々な判断をする上で重要であるので正しい理解を身につけておいてほしい。

資料「山口県バスケットボール協会 TABLE OFFICIALS MECHANICS」（以下㊦）

P.12「ライブ」と「コントロール」参照

## スコアラー ㊤P.2~4

○ 試合中に起こったことを、スコアシートに記録する。

### 【注意点】

- ・AチームとBチームが混同しないようにする（付箋を活用してもよい）。
- ・審判のファウルコールの際には、一緒に声に出すことでミス防止。  
OKサインでコミュニケーションをとる。
- ・交代・タイムアウト時のブザーの鳴らし方・タイミング。
- ・シュート後のタイムアウト請求への反応（決められたベンチへの視野）。
- ・アローの表示。
- ・テクニカルファウルのフリースローの本数（新ルールの適用）。

## A・スコアラー

○ スコアラーの記録を表示する。

### 【注意点】

- ・「○○番、●●点目、△△対▲▲」等、声に出してスコアラーと確認をする。
- ・個人ファウルの表示は5秒程度。
- ・チームファウルの赤表示（㊤P.7 ボールがライブになったときに表示）。

## タイマー

○ タイムを計る。1番簡単ではあるが、1番正確性を求められる。

### 【注意点】

- ・ジャンパーのタッチ、スローインのタッチ等、計り始めを正確に。
- ・第4ピリオド・延長における残り2分は「2:00」を含む。
- ・手の合図、上げ方・下げ方（上で拳を握ってから下ろす）。  
間があるときには上げ続けなくてよい。
- ・タイムアウトは審判がタイムアウトを認める笛を鳴らしたときに計り始める。
- ・タイムを知らせるブザーはタイマーが管理。
- ・ショットクロックのカウントダウンを一緒に、リングに触れたかを確認する。

## 24秒計オペレーター

○ 24秒に1回必ず作業がある、1番忙しいポジションである。

### 【注意点】

- ・新ルールをきちんと理解しておく。
- ・「コントロール」が変わるタイミングの確認。
- ・笛が鳴ったときには、まずストップをする。

資料「全国審判長会議 補足説明関連について」1.ショットクロック（24秒計）の表示

資料「24秒計基本操作及びケース集」P.5・8「24秒系の基本操作④⑤-3」参照

それぞれ2人・2人の連携、4人の連携を図り、不安のない状態で臨みましょう。

## TO 主任

○ 「任せる部分」と「手助けする部分」の線引きをし、基本的に仕事は任せる。

### 【注意点】

- ・ゲーム開始後、各セクションの最初の仕事を確認する。
- ・レフリーミスがあった際の確認をする。

バスケットが好きでここにいる、バスケットを楽しめる TO を！

### 【閉講式】

講師からの講評・助言

役割分担をしっかりと。また、スコアラーの仕事量は非常に多い。タイムアウトやインタヴァル中は作業をしていることがあるので、周囲は情報を整理し気遣いをしてあげる。主任の先生は、褒めることも是非してほしい。

4人で行う TO が本来の態勢であるので、その方法に慣れてレベルアップが図れるように。

## 今後の課題

- ・時限の終わりの合図が自動で鳴るが音が小さい機材については手押しブザーを活用する。
- ・タイムアウトへの対応を、ゲームの流れから予測できるように。
- ・個人ファウルの伝達は、スコアラーから A. スコアラーへ声で行う。
- ・スコアシートがバラバラにならない工夫を。
- ・レフリーからの OK サインにアイコンタクト、コミュニケーションを。
- ・関東大会に向けてスキルアップを図りましょう。

委員長挨拶

選手はその試合に、多くの時間をかけて練習を積み臨んでいる。それを TO が台無しにしては絶対にならない。意識だけでも変わるはず。普段から TO のステイタスを上げて意識の向上を！

【講師によるレクチャー】 八丁 茉莉佳 氏

TOはコミュニケーション次第で、そのゲームを共にすることができるか否か変わってくる。全国の重点課題にも「TOと審判のコミュニケーション」と含まれている。

審判員の方をお願いしたいこと、伝えたいこと

① 会場での機材確認

EX:ブザーは会場の応援の中で聞こえる大きさか

タイマーとタイムアップのブザーが連動しているか

「0:00」とブザーが同時であるか、タイムラグがあるか

機材のボタンと作動のタイムラグがあるか

こういったことを先に知っておくことで、チームへの説明ができトラブルを防ぐことができる。

② コミュニケーション

ファウルコールはゆっくり、スコアラーとアイコンタクトをとりながら。(荒れているゲームほどコールが速い傾向にある。審判がゆっくり伝達することでゲームを落ち着かせて欲しい。)

インタビューはできる限り短縮せず、時間を使う。インタビューはチームのため審判の為だけでなく、観客やTOの為にある時間でもある。

TOのミスやgood jobに気づいて声かけやOKサインをしてもらえると安心できる。

タイマーの手が上がっているか確認を。上がっていなければトラブルの可能性あり。

「TOはミスがあるもの」と思っていたきたい。高校生ならなおさら、良いところを褒めてほしい。

③ スタッツとのコミュニケーション (NBL等のカテゴリーにおいて)

スタッツはTOを基につけることが基本となっている。24秒リセットか14秒リセットかでTurn OverやSteelが変化、スコアラーの得点選手の記録ミス、さらにはモップの汗の拭き逃しでプレイに影響。NBLではそのデータを基に契約や年俵に影響する為、1つ1つが選手の今後に関わるということとあっていただいてTOに臨んでいただきたい。